

наговоримся досыта. (数量の拡大)

(e) Руки, лица, колени были изранены, но он не чувствовал боли. (空間の拡大)

(f) Бабушка проварила соус на слабом огне. (時間の拡大)

強度の動作様式は他の動作様式と交差するものとして動作様式の分類において独特な位置を占めている。強度の動作様式と他の動作様式との相関、及び個々の語形成型の動作様式内でのふるまい等は今後の課題である。

(かねこ ゆりこ・東大院)

墓標にみる古儀式派ヴィグ共同体

宮 崎 衣 澄

古儀式派の無司祭派に属するヴィグ共同体(Выговская пустынь)は、数ある古儀式派共同体の中でも独特の位置を占めている。1694年ロシア北部地方白海沿岸部のヴィグ川流域に、シュニガーの輔祭ダニール・ヴィクリンらの指導下に設立され、古儀式派弾圧下において約150年間、無司祭派最大拠点の一つとして、宗教文学、経済面でめざましい発展を遂げた。しかし彼らの文化的側面に関しては、近年優れた研究がなされてきているものの、未だ明らかにされていない点が極めて多く、彼らの美術作品の高い技術や芸術性を鑑みると、この分野における研究の遅れは大変残念なことである。そこで本報告ではヴィグ共同体の墓地に着目し、そこに残された柱型墓標を、その柱部とアイコンの両面から分析することで、ヴィグ共同体の宗教意識や芸術、文化における特性の一端を明らかにする。その際、ロシア各美術館・古文書館での調査によってえられた約380点の写真とアイコンを分析の対象とした。

柱型墓標は、墓標の柱部、柱の上部に設置される木彫アイコン(時として銅製)、屋根から成る。現存する木彫アイコンの図像はほぼ共通で、ゴルゴダの丘に八端の十字架、槍と杖とキリスト磔刑をシンボル化したものである。木彫アイコンはニーコンの改革以前から制作されていたが、1722年シノドよりその制作・使用について禁令が発布された後は、主にヴィグ共同体周辺の古儀式派の間でのみ制作された。火事や強制撤去にもかかわらず、同共同体周辺の制作とされ、現存する木彫アイコンは数百点に達する。またアイコンには十字架賛美の祈禱文が彫り込まれる場合が多く、終末を強く

意識していた信徒が木彫アイコンに復活への期待を託したと想像される。一方墓標の屋根や柱部には、ロシア北部の農家に施される太陽等をシンボル化した装飾がなされており、また柱型墓標の起源は祖先信仰にあるという。つまり柱型墓標の屋根や柱部は、自然崇拜や祖先信仰といったスラブ民間信仰の要素を多分に残している。

ここで墓標の屋根・柱部と木彫アイコンの両者を併せて検討すると、興味深い結果が得られる。すなわち、木彫アイコンには終末を意識し、復活を期待するヴィグ共同体の真摯なキリスト教の姿が垣間見られる一方、そのアイコンを支え守る屋根・柱部は、その形態において民間信仰の名残を多分に残しているのだ。むしろ建築物や工芸品に民間信仰の名残や要素が見られるからといって、ただちに古い信仰を保持していることにはならないが、他の正教会の墓地ではみられなくなった民間信仰の要素が、古儀式派の間でのみ長く保存されたことは非常に興味深い事実である。つまり、同共同体は古儀式派の思想、文学面で高度な発展をとげたと同時に、無意識のうちに民間信仰の伝統の継承者となったのである。そしてキリスト教と民間信仰の伝統を融合させながら、高い水準を誇るヴィグ共同体独自の芸術スタイルを形成したといえるのではないだろうか。

(みやざき いずみ・阪大院)

